

中学校第3学年 器械運動（マット運動） 解説の表記（協力）

互いに助け合い教え合おうとするとは、技や演技の練習を行う際に、互いに仲間の動きを観察して動きの様子や課題を伝え合ったり、不足している勢いや力を補助し合ったりしながら取り組もうとすることを示している。そのため、互いに助け合い教え合うことは、安全を確保したり、課題の解決に役立つなど自主的な学習を行いやすくしたりすることを理解し、取り組めるようにする。

生徒に理解させたい意味・意義

互いに助け合い教え合おうとすることで、安全を確保できたり、課題の解決に役立つなど自主的な学習を行いやすくなること

生徒が具体的にいうこと

- ・男女別の班を編成して、各々の体力の程度に適した技を選択させたものを各班でまとめ構成し、ベスト演技発表会で披露する。
- ・練習の際に、互いに仲間の動きを観察して動きの様子や課題を伝え合ったり、課題となる勢いや力、曲げ伸ばしを補助し合ったりすること。

教師による場面、方法、発問等の計画

場面・方法	発問
1H オリエンテーションで、個々の体力等の違いがあることをおさえ、課題の克服や挑戦を理解することの大切さを教師が伝える。その中でこれまでの授業で協力して活動できたことを生徒に振り返らせ、本単元で自分がどのように関わるか行動の仕方についてアンケートを行う。	できないことができるようになった経験はありますか。またその際、仲間と協力して取り組むことでできるようになったりより動きが高まったりしたことはありますか。マット運動で、仲間とどのように取り組みますか。
2H 1Hで答えたアンケートの記述内容を提示し、協力することの具体的な行動の仕方を確認させる。また自己の能力を確認する試技を行う中で、安全を確保するための正しい補助や助言の仕方を、既習技の復習を行わせながら確認する。	具体的な協力の姿として、どんな補助の仕方が良いですか、どんな助言をすればよいですか。また、助言を受け取る側はどんな姿勢が大事ですか。
5H 同じ技を選択した仲間同士のグループで動きを高める活動を通して、協力することが課題解決に役立ち、自主的な学習につながることを理解させる。アドバイスカードの活用。	「できる」から「より上手にできる」を目指して、さらに課題を明確にしながら技能を高めるためには、どの局面に着目してどんなサポートができますか。
8H 前時までの振り返り内容をもとに、これまで蓄積してきた仲間と協力する具体的な姿を振り返り挙げ、メインチームの仲間と技能向上を目指した活動を通して、よりよい協力の仕方を目指して活動し、向上する。	（ある班の活動する動画見て、）雰囲気良く活動できています。この画面上の試技者がしているこの技の完成度を上げたい。どんな課題や助言ができますか。
12H 学習を振り返る場面で、仲間の補助や助言によってわかる、できるようになったことを生徒にまとめさせる。	学習を通して、自分の動きの理解が進んだりできるようになったりした時は、仲間とどんな場面でどんな活動した時でしたか。